

九頭竜川流域委員会における論点整理（発言要旨集）第8回流域委員会

発言状況等	内容区分 質 課 提 問 題 案	回答	分野	発言要旨	主意	ID
第8回流域委員会			環境・利水（生物・景観）	山林の開発が進み、動植物の生息状況が変わってきているが、環境面と治水面に影響があるのではないかと。川でも水清くして魚すまず、ということになっている。谷川は川の産卵場となっているが、そこまで遡上できていない。自分の子ども時代のような、魚が遡上できるような環境としてほしい。	魚が遡上できる川をめざすべき。	801
第8回流域委員会			環境・利水（生物・景観）	鳴鹿堰では魚類が遡上できるようになっているが、そこから奥はどうか。九頭竜川、日野川、足羽川での魚類の遡上状況を示してほしい。	九頭竜川、日野川、足羽川での魚類の遡上状況を示してほしい。	802
第8回流域委員会			環境・利水（生物・景観）	河川上流域での森林保全や林道整備等の事業は、環境への影響を十分検討して行われているのか。また、影響の評価・検討がなされているのか。	河川上流域での森林保全や林道整備等の事業に際し、環境への影響の評価・検討はきちんとして行われているのか。	803
第8回流域委員会			治水（河川整備） 環境・利水（生物・景観）	<樹林化の要因> 樹林化のプロセスには、土砂の堆積が重要な役割を果たしている。砂利採取やダムにより、粗い土砂が下流に流れてくる量が減ったことが大きな要因。土砂の流下が減ると、河床が局部的に低下し滞りが固定され、高低差が拡大する。ついで冠水しにくいところに植物が生え、そこに細かい土砂が溜りやすくなる。以上が、樹林化のプロセスと考えられる。日常的な水量の減少だけでなく、大きな出水による河道の攪乱がなくなったことが要因と考えられる。 <樹林化への対策> ある程度の土砂を流すとともに、その河道がもともと持っていたような水量を流し、インパクトを与える。土砂が日常的に流れるようなダムを場合によっては作っていく。いろいろな目的を達成するために、複数の場所で目的を分散させるという考え方が重要。例えばダムならば、複数の場所で治水や利水を目的とするダム群としてその機能を果たすことを場合によっては考えていく。土砂の連続性を考え、川の本流となるところには水が常時流れ、かつ土砂も流れる形を確保する。	樹林化は、横断工作物による土砂の流れの分断、その結果としての河床低下が関係している。日常的な流量の減少だけでなく、洪水による河川の攪乱がなくなったことも要因と考えられる。今後の河道計画に当たっては、その河道がもともと持っていたような水量を流し、インパクトを与える。土砂の連続性を考え、川の本流となるところは水が常時流れ、かつ土砂も流れるという形をできるだけ確保していくことが重要。いろいろな目的を達成するために、複数の場所で目的を分散させるという考え方が重要。例えばダムならば、複数の場所で治水や利水を目的とするダム群としてその機能を果たすことを場合によっては考えていく。	804
第8回流域委員会		有	環境・利水（生物・景観）	樹林化はそもそも河川の環境として好ましいことなのか。また意図的に行われていることなのか。自分には判断がつかないので、専門家に功罪を判断してもらって進めてほしい。	樹林化はそもそも河川の環境として好ましいことなのか。	805
第8回流域委員会			環境・利水（生物・景観）	農林、砂防など各都府県が個別に行っている事業が、河川環境に与える総合的・複合的な影響の評価が積み残しになっているのではないかと。計画段階での環境アセスメントに加えて、事業の事後評価、モニタリング等が大切である。	各分野で行われる事業が河川環境に与える総合的・複合的な影響を評価するために、事後評価、モニタリング等が重要である。	806
第8回流域委員会			流域委員会での検討スタンス	省庁の連携を求める意見内容について、整備計画のなかでどこまで踏み込むか。提言に留めるのか、あるいはより具体的に踏み込むのかは流域委員会として重要な視点である。	省庁の連携に係る意見内容について、整備計画のなかでどこまで踏み込むかは流域委員会として重要な視点である。	807
第8回流域委員会			環境・利水（親水・利用）	（川を語る会のアンケートに対し）奥越漁協からは、堤防の天端が荒れていて漁業監視等に支障があるので、対応してほしいとの要望が出ている。	堤防の天端が荒れていて漁協の漁業監視等に支障があるので、対応してほしい。	808
第8回流域委員会			環境・利水（親水・利用）	小学校でピオトープがもてはやされているが、むしろ本当の川を学習や遊びに利用する工夫を考えるべき。川そのものへの本来の親水がおさなりにされている。	学校等にピオトープをつくるよりも、実際の河川を学習や遊びに利用する工夫をすべきである。	809
第8回流域委員会			環境・利水（生物・景観）	県水産課が昭和55年以来行ってきたサケの稚魚放流が、平成12年度で打ち切られた。サケ資源の定着化という当初の目的は達成されたが、サケの遡上は河川環境の指標ともなるので、その意味で事業を継続してほしい。	サケの放流事業が平成12年度で終了したが、サケの遡上は河川環境の指標ともなるので事業を継続してほしい。	810
第8回流域委員会			環境・利水（親水・利用）	遡河魚は捕獲が禁じられているが、福井以南のサケなどは商品価値の低いものなので、捕獲を規制する必要はないのではないかと。サケの生態を通じた環境学習の教材などとして有効に活用すべき。	サケなど遡河魚は捕獲が禁じられているが、禁止する意味は薄く、むしろ環境学習などに有効に活用すべき。	811
第8回流域委員会			流域委員会での検討スタンス	文言や数値での情報は理解しにくいので、グラフ等視覚的に分かりやすい形で提供してほしい。	文言や数値での情報は理解しにくいので、グラフ等視覚的に分かりやすい形で提供してほしい。	812
第8回流域委員会			治水（河川整備）	（追加資料 1、p17）流域の飽和点のデータについて、50年前との比較は可能か。	50年前と現在の飽和雨量の相違を示してほしい。	813
第8回流域委員会			治水（河川整備）	主要洪水の1/150年確率への降雨倍率を示してほしい。	主要洪水の1/150年確率への降雨倍率を示してほしい。	814
第8回流域委員会			治水（河川整備）	（追加資料 1、P18）総雨量と流出高の散布図に使用したデータの期間を示してほしい。	総雨量と流出高の散布図に使用したデータの期間を示してほしい。	815
第8回流域委員会			治水（洪水被害の軽減）	ハザードマップなどは住民はあまり見ないので、過去の洪水時に水が上がった高さを公民館に明示するなど、洪水に備えるための広報を行うべき。	洪水時の浸水深を公共建築物に明示するなど、洪水に備えるための広報を行うべき。	816
第8回流域委員会			流域委員会での検討スタンス	市民の自衛や行政指導による水害対策も大切ではあるが、この流域委員会で議論すべきなのはむしろ、20～30年の期間で九頭竜川の治水対策をどうするかという点だと思う。足羽川ダムについてはダム審議会などを経て大方の方向は出ていると認識しており、流域委員会は市街地の水害を防ぐためにダムをつくるかという選択を再確認する場ではないか。	流域委員会は、ダムの選択も含めた治水の基本的な対策を20～30年間のスパンで検討する場であるべき。	817
第8回流域委員会			治水（流域）	森林の保水能力は、広葉樹を混交することにより上がるのではないかと。専門家のお話も含め、より多面的に情報提供していただけたらありがたい。	森林による治水効果について、より多面的に知見を紹介してほしい。	818
第8回流域委員会			流域委員会での検討スタンス	・ドラゴンリバー交流会の活動では、農林水産関係など他分野との連携が始まった段階であるが、整備計画の策定についても、縦割り行政の弊害がないように策定すべき(819)	・河川のNPO活動では農林水産関係など他分野との連携を強めようとしており、整備計画の策定についても、縦割り行政の弊害がないように進めるべき。	819
第8回流域委員会			治水（洪水被害の軽減）	洪水被害の軽減に向けた地域レベルでの取り組みに対し、行政からの補助金制度・優遇措置等もありえるのではないかと。住民やNPOの取り組みも重要になる。	洪水被害の軽減に向けた地域レベルでの取り組みに対し、行政からの補助金・優遇措置等もありえるのではないかと。住民やNPOの取り組みも重要になる。	820
第8回流域委員会			治水（河川整備）	（追加資料 1、P34、P35）九頭竜川の氾濫シミュレーションでは、年超過確率が1/30年から1/150年を比較したとき、浸水世帯数はさほど増えないのに、被害額は大きく変わるのなぜか。	九頭竜川の確率規模別浸水家屋数、浸水被害が九頭竜川において、確率の変化による両項目の変化の割合が異なる理由を示してほしい。	821

九頭竜川流域委員会における論点整理（発言要旨集）第8回流域委員会

発言状況等	内容区分 質：課：提 問：題：案	回答	分野	発言要旨	主意	ID
第8回流域委員会			治水（河川整備）	（追加資料 1、P33）氾濫シミュレーションのパターンが変わった場合には、被害のグラフが変わるので、その資料を出してほしい。	浸水想定区域図を他の降雨波形についても示してほしい。	822
第8回流域委員会			治水（河川整備）	破堤しないで越水した場合の氾濫シミュレーションを示してほしい。ダムの問題がでているので、いろいろな仮定の一つとして見てみたい。	堤防を越水しても破堤しなかった場合の浸水想定区域図を示してほしい。	823
第8回流域委員会			流域委員会での検討スタンス	流域委員会の進め方について、資料のフローチャートに示された順序で進めたいが、ご了解いただけるか確認したい。	流域委員会の進め方については、資料のフローチャートに示された順序で進めたい。	824
第8回流域委員会			流域委員会での検討スタンス	足羽川ダムについてはすでにダム審議会の答申もあるが、流域委員会のコンセプトは、数人の専門家だけでなく、より広く地域の有識者に意見を聞くという点にあると思うので、さらに意見交換する意味はある。委員長が進め方によいと思う。	足羽川ダムについてはすでにダム審議会の答申もあるが、流域委員会のコンセプトは広く地域の有識者に意見を聞くという点にあると思うので、さらに意見交換していくべき。	825
第8回流域委員会			流域委員会での検討スタンス	足羽川ダムありきでないということだが、実はある程度の線が引かれているのではないかと。そういうことであれば、自分は委員に適さないと思うので、次回に委員長の見解を明らかにしてほしい。	足羽川ダムありきでないということだが、実はある程度の線が引かれているのではないかと。	826
第8回流域委員会			治水（流域）	森林の保水能力は、中小の降雨には効果があっても、治水計画で対象とするような大きな降雨に対してはほとんど効果がないと理解してよいか。	lg	827
第8回流域委員会			流域委員会での検討スタンス	今回の流域委員会は、目標設定を議論する材料を概括的に用意したが、さらなる判断材料を追加する要請もあった。治水だけでなく、環境、利用、利水がいろんな形でリンクしているという指摘であり、当然である。そういうものも切り口としては論点整理をしているが、それを連携する形で焦点の当て方を構成する。今回は、治水の目標、利水・環境との絡み、あるいは物によっては、環境を先に出して論点整理をし、整備の目標を立てるといった意見もあったので、その点をさらに整理して、次回、資料とあわせて用意する。	今回の流域委員会は、目標設定を議論する材料を概括的に用意したが、さらなる判断材料を追加する要請もあった。治水だけでなく、環境、利用、利水がいろんな形でリンクしているという指摘であり、当然である。そういうものも切り口としては論点整理をしているが、それを連携する形で焦点の当て方を構成する。今回は、治水の目標、利水・環境との絡み、あるいは物によっては、環境を先に出して論点整理をし、整備の目標を立てるといった意見もあったので、その点をさらに整理して、次回、資料とあわせて用意する。	828